

ユリアン・アルプス (スロベニア山岳地帯: *Kranjska Gora, Jesenice*)

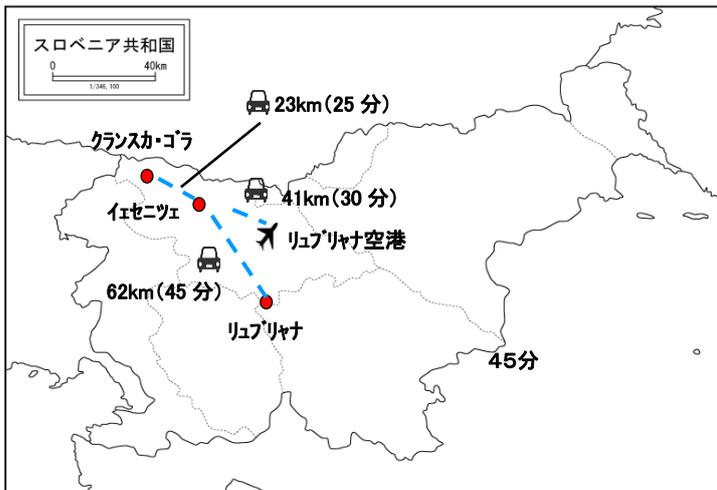
平成28年8月
在スロベニア日本国大使館

～スロベニア山岳地帯のポイント～

- 山あいの静かな湖「ヤスナ湖」
- 国旗にも描かれたスロベニアのシンボル「トリグラウ山」
- スキージャンプ体験もできる「ノルディックスキーセンター」
- 白い水仙が咲く丘「プラニーナ・ポッド・ゴリツォ」



クランスカ・ゴラ周辺の岩山



スロベニア山岳地帯

- スロベニアのアルプスは「ユリアン(ジュリアン)・アルプス(Julian Alps)」と呼ばれている。スロベニアでは、親しみを込めて別名「サニー・サイド・アルプス」、つまり「太陽の当たる側のアルプス」とも呼ばれている。
- ユリアン・アルプスの最高峰である標高2864mのトリグラウ山は、スロベニアの国旗にも描かれている。このトリグラウ山一帯は国立公園に指定されており、夏は避暑地、トレッキング、登山、冬はスキーのメッカとして賑わう。

1. クランスカ・ゴラ(Kranjska Gora)

(1) アクセス

- 首都リュブリャナから約85km:車で約1時間10分
バス(リュブリャナ駅発)で約2時間
1日15便運行
- リュブリャナ(ヨジエ・プチニク)空港から約65km:車で約1時間
- イエセニツェから約23km:車で約25分

(2) 統計

- ・人口:5,294名(2015年12月現在)
- ・主要産業:観光業
- ・平均総月収:1,319ユーロ
(約14.7万円、2015年)
(全国平均:1,555ユーロ)
- ・失業率:8.0%(全国平均は12.3%)

(3) 概要

●スロベニア北西部、ユリアン・アルプスの山間にある街。オーストリアから6.5km、イタリアから7.5kmと2カ国の国境近くに位置する。

●クランスカ・ゴラには、11世紀頃からカラントニア(現在のクラゲンフルト周辺。ドイツ語の「ケルンテン」)からやってきた人々の定住が始まったとされている。14世紀には、トレヴィーゾ(現イタリア)との交易ルートが確立され、街が発展していった。

●第一次大戦中、クランスカ・ゴラは、イタリア軍とオーストリア軍が対峙したイゾンツォ戦線に近かったため、戦略的に重要な拠点となった。そのため、オーストリア軍はイゾンツォ戦線の補給路として、軍用道路を建設した。(ロシア礼拝堂の欄参照。)

●第二次大戦後、クランスカ・ゴラは、スキーリゾートとして街の開発が進んだ。街の西側の山(Vitranc)に1949年～1965年にかけて7本のスキーリフトを開通させた。現在は、スロベニア国内でも屈指のスキーリゾートとしても知られており、冬場は多くのスキー客で賑わう。

(4) 周辺情報

ヤスナ湖 (Jasna Jezero)

ヤスナ湖は半円形の池が2つ連なったような形の湖で、湖畔にはシュタインボック(ヤギの仲間)でヨーロッパアルプスの高度山岳地帯に生息する)の像が立っている。澄んだ湖面には周囲の山並みが映り、その上を鴨が泳ぐ、ゆったりとした湖。秋は紅葉も美しい。



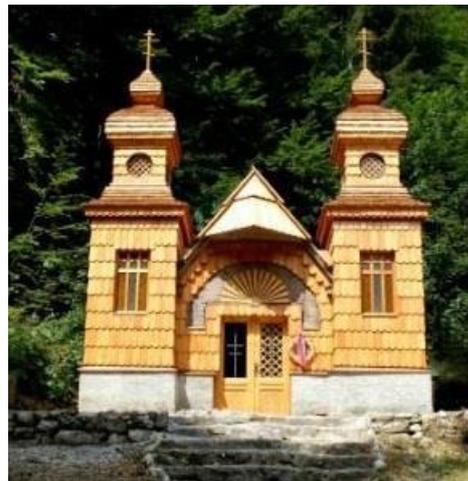
ロシア礼拝堂 (Ruska kapelica na Vršiču)

●クランスカ・ゴラの南、ヴルシツ峠(Vršič)に佇む第一次大戦時に亡くなったロシア兵捕虜を慰霊するために建てられた木造の礼拝堂。

●1915年、この地域を支配していたオーストリア軍はイゾンツォ戦線への補給ルート確保のため軍用道路の建設を決め、労働力不足から、多くのロシア兵捕虜を強制的に働かせた。しかし、1916年3月、急斜面で大規模な雪崩が発生し、作業にあっていた多くの人々が死亡した。正確な犠牲者数は不明だが、約170～300人のロシア兵捕虜と10～70人のオーストリア軍兵士が亡くなったと言われている。

●その後同年11月に、ロシア兵捕虜により記念碑としてロシア様式の礼拝堂が建てられた。教会の両側には、ロシアでよく見られるバロック様式の円屋根を持つ小さな2つの塔がある。雪崩の犠牲者は、礼拝堂の隣にある小さな墓地に埋葬されている。

●この礼拝堂では毎年犠牲者を追悼する式典が行われ、ロシア人司祭のほかスロベニア政府やロシア政府の代表が出席している。2015年はメドヴェージェフ首相が出席し、100周年となる今年(2016年)はプーチン大統領が出席した。



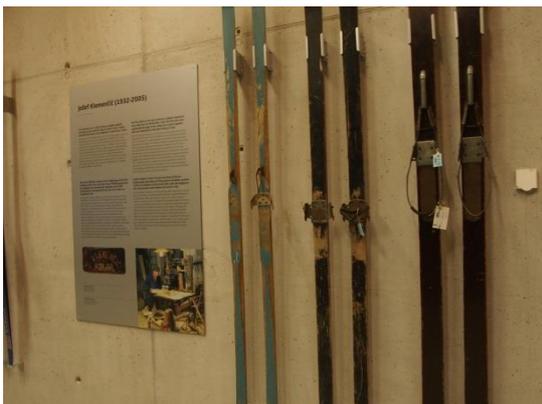
©2016 Slovenia Tourist Board.

プラニツァ・ノルディックスキーセンター (Nordijski Centre PLANICA)

●クランスカ・ゴラから西へ約8km、イタリアとの国境近くに位置する、スロベニア国内で最大のジャンプ台を有するスキージャンプ施設。毎年、

スキージャンプのワールドカップが開催され、日本からも葛西紀明選手や高梨沙羅選手等が大会に出場している。

●ジャンプ台の正面にある新しい建物内には、スキージャンプの歴史コーナーがあり、実際にスキージャンプを体験できるシミュレーションマシンが置かれている他、夏場でもウィンタースポーツを訓練できる施設も併設されている。



博物館の展示品

トリグラウ山(Triglav)

●標高2,864m、スロベニアで最高峰の山。トリグラウ山は、スロベニアの象徴として、国旗や国章、国内で発行される50セント硬貨にもデザインされている。その名の由来は、ボーヒン湖の谷から見た山景(山の頂が三つ連なって見える)によるもので、スラヴ語で「Triglav」「三つの峰」と名付けられた。

●山の頂上には、「アリアスの塔(Aljažev stolp)」という鉄製の塔が建っている。この塔は、悪天候時の登山家の避難シェルターとして使われているが、トリグラウ山と同様にスロベニアのシンボルにもなっている。



©Wikipedia

●トリグラウ山の最初の登頂者は、1778年8月25日に登頂に成功した地元のスロベニア人グループで、医師のロウロ・ウィロミツァー(Lovro Willomitzer)、猟師のシュテファン・ロシッチ(Štefan Rošič)、炭坑夫のマテウジュ・コス(Matevž Kos)とルカ・コロシェツ(Luka Korošec)の4人といわれている。この4人を称える像が、現在ボーヒン湖のほとりに建っている。



©Wikipedia

2. イェセニツェ(Jesenice)

(1) アクセス

- 首都リュブリャナから約62km:車で約45分
バス(リュブリャナ駅発)で約1時間30分
1日16便運行
- リュブリャナ(ヨジェ・プチニク)空港から約41km:車で約30分
- クランスカ・ゴラから約23km:車で約25分

(2) 統計

- ・人口:20,858名(2015年12月現在)
- ・主要産業:鉱業、鉄鋼業
- ・平均総月収:1,553ユーロ(約18.3万円、2015年)
- (全国平均:1,555ユーロ)
- ・失業率:10.8%(全国平均は12.3%)

(3)概要

●イエセニツェは、カラヴァンケ山脈(スロベニアとオーストリア国境の南石灰岩アルプス)の南側に位置し、スロベニア最大の製鉄会社アクロニ(Acroni)社と同社がスポンサーを務めるアイスホッケーのチーム(HK Acroni Jesenice)の本拠地として知られている。「イエセニツェ」という地名の由来は、この地に原生する「(イエセン(スラブ語: Jesen/スロベニア語: Jesenik)）」というセイヨウトネリコの木に由来する。



セイヨウトネリコの木

©Wikipedia

●イエセニツェは古くから鉄鋼業を主産業として栄えた街で、街についての記録も鉄鋼業に関するものが多く残されている。そのうち最も古い記録は、1381年にケルンテン(現オーストリア南部の州)のオーテンブルク伯に発行された採鉱の権利についての記録がある。

●1870年にイエセニツェに鉄道が敷設されると、街の発展は急速に進んだ。それ以前までは、イエセニツェの街へのアクセスは、舗装されていないただの砂利道のみだったが、鉄道によって近隣諸国へのアクセスが容易になった。

●第一次大戦が勃発すると、イエセニツェの鉄鋼技術はドイツ軍に向けた軍事製品製造に応用された。また、国境近くという好立地のため中継地としても役割を果たした。イエセニツェは戦略的にも重要な拠点だったが、戦線からは離れていたため、1度だけイタリア軍の爆撃を受けたのみで、大戦中は大きな戦火に巻き込まれることはなかった。

●第二次大戦中、イエセニツェはイタリア軍に占領され、後にドイツ軍が占領したことで再びドイツ軍用の軍事製品製造及び戦略的拠点となっ

た。第一次大戦では戦火を免れたが、第二次大戦終戦直前に、同市は連合国側からの激しい空爆にあい、甚大な被害を受け、多くの死傷者が出た。

●スロベニアの分離独立直前の1991年には、カラヴァンケ山脈を抜けてオーストリアへ繋がる全長7.9kmのカラヴァンケトンネルが市の近くに完成し、交通の便は大いに改善された。

(4)周辺情報

Arena Podmežakla(屋内型スポーツ競技場)

●1978年設立の屋内スポーツ用競技場。毎年春に「Triglav Trophy」というフィギュアスケートの世界大会が開催される。また、2013年には、ユーロバスケットの大会会場にもなった。

●この競技場には毎年、日本からアイスホッケーチームが来訪し、強化合宿や地元チームとの親善試合なども行っている。



日本VSスロベニア・ナショナルチームとの試合(2016年4月)

プラニーナ・ポド・ゴリツォ(Planina pod Golico)

●イエセニツェ市北部に位置する谷間の小さな街。この街を起点とするハイキングコースには、4月後半～5月前半にかけて丘の斜面に白い水仙が咲き誇り、多くの人が訪れ、毎年5月に地元観光局主催で水仙祭りが開催される。なお、この周辺地域は1949年から環境保護区に指定されており、草花を折ったり、持ち帰ることは禁止されている。



©Copyright 2013-2014 - Jorge Piccadilly